

# The 3rd Congress of AAMLS in Yokohama

第 3 回アジア医学検査学会(The 3rd Congress of AAMLS)が、平成 21 年 7 月 30 日(木)~31 日(金)を会期とし、パシフィコ横浜を会場に開催された。アジア諸国から Korea, Philippine, Hong Kong, Singapore, Vietnam, Thailand, Indonesia, Malaysia, Taiwan が参加した。また、IFBLS から Gry Andersen, Lena Morgan 両氏を招いた。参加者は、招待者を含め 193 人(日本人 114 人)であった。

## 第 3 回アジア医学検査学会を終えて…

実行委員会 湯浅宗一

2005 年に第 2 回アジア医学検査学会(以下 AAMLS 学会)が中国上海で開催された。そこで開催された AAMLS 理事会において、日本が第 3 回 AAMLS 学会の開催国として立候補し、満場一致で承認された。以来、4 年が経過し、この度の開催となった。

実際の運営は、各理事への業務分担の説明が前日という間際にもかかわらず大きなトラブルもなく終了することが出来たことよりもありがたいことであった。なかでも、受け付け作業が最も煩雑で問題が生じるのではないかと心配されたが、大きなトラブルもなく終了することが出来た。担当理事の的確な行動と共に、英語に堪能な会員に実務委員(英語班)として加わっていただいたことが良い結果を生んだ。また、着物体験コーナーや抹茶サービスを担当された「着物班」の方、更には、情報化時代に相応しい写真や素早い DVD 作製などのサービスに携わったホームページ委員の方々のご苦労は測りきれないものがあった。改めてお礼申し上げたい。

### ◇ 学会特別企画

学会テーマは日本からアジアへ新しい技術、知識を発信することを目指して「Innovation of Biomedical Laboratory Science」とし、Innovation of Technology、Innovation of Management、Innovation of Information、Innovation of Strategy を、本テーマを支える 4 つの柱とした。このテーマに相応しい特別講演として東大特任教授の浅島誠先生と東芝病院研究部部長三代俊治先生にお願いした。浅島先生には「Organogenesis *in vitro* using undifferentiated cells and their molecular approaches in Vertebrate Development」と題して最新の再生医療の現実についてお話いただき、多岐にわたる ES 細胞の話聞くことができた。三代俊治先生には「A Cutting Edge of the DNA Chip Technology」と題して DNA チップについて講演をお願いし大変感銘を受けた。三代先生の発表主題である肝炎は広くアジアに広がっている現状から参加された各国にとっても大変興味を持っていただけた。

また、小崎会長は基調講演として日本における精度管理、データ共有化の現状を話された。精度管理の大切さ、データ共有化の必要性、加えて日本だけではなくアジアをも含めた精度管理調査の必要性に言及した。加盟国でも興味ある事業である模様で、フロアから多くの質問があった。この内容は必ずや次回の学会につながっていくものと確信する。

### ◇ シンポジウム I・II

シンポジウム I は、Innovation of technology とし、Korea, Malaysia, Singapore, Taiwan, Japan を代表するシンポジストが、最新の研究成果を発表した。シンポジウム II は、Innovation of Strategy である。Thailand, Philippine, Indonesia, Japan から各国の臨床検査技師会の戦略を話す場となったが、その中で、Thailand 会長の「innovation とは何か」から始まり、「我々は毎日が innovation でなくては」と結ばれた講演が印象的であった。彼女は来年度から AAMLS 理事会で新 AAMLS 会長となることが決定している。いずれの発表も興味のある内容で、質疑も活発で予定の時間を大幅にオーバーし、午後からの記念式典開始への影響も心配されたが、座長(小松事務局長)の采配でうまく切り抜けることができた。

### ◇ 一般講演。ポスターセッション

一般口演はレベルが高く、アジア各国の会長と日本臨床衛生検査技師会の理事に座長をお願いした。日本人の発表に対し、海外から興味深いとのコメントが多かったことは、喜ばしいことであった。朝一番の発表から各国の会長が参加され、質問をされるなど熱心に発表を聞かれていたのには大変驚かされた。

### ◇ ポスターセッション

50 演題ほどのポスターが並ぶラウンジは、自由ディスカッションの場となり、ポスターの前での記念撮影風景もみられた。

### ◇ 学生フォーラム

学生フォーラムも将来の臨床検査技師像について活発に意見が交わされた。IFBLS では教育に力を入れており、IFBLS の Past President である Lena Morgan 氏が進行役でセッションが進められた。アジア諸国の会長達は日本の学生がどのような教育を受けているかに興味を示していた。このセッションには、日臨技の歴代会長が聴講されていたことに感銘を受けた。

### ◇ 関連行事

学会期間中には学会長招宴、Welcome Party、Farewell Party が開催された。

特に Welcome Party は天候不順で雨も一時心配されたが、当日はクルージングに絶好の日となった。ベイブリッジをはじめ湾内から見る横浜の魅力を堪能するとともに、船内でのアトラクションでは TV でよく見かける有名なマジシャンの演技に拍手が止むことはなかった。また、Farewell Party にはジャズバンドの演奏に参加者一同が大いに盛り上がった。この Party の最後に次回開催国である Eddie Ang san (Singapore) 会長の挨拶があり、次回再会を約束し名残を惜しみながらの帰国となった。

また、最終日のみであるが、日本文化体験コーナーを設けた。ゆかたを着て写真撮影を行うコーナーと、抹茶サービスを行い、大変好評であった。担当者のお茶会用の着物と浴衣が同じ着物でも違うことを質問するなど、海外の方々の知識習得への積極性を改めて感じた。会場には開始予定時間前に大変の多くの方が見えたので予定より早く始めるほどの盛況であった。また、Farewell Party においても浴衣の着方を指導するなど大変好評であった。

### ◇ 終わりに

日臨技が国際学会を開催したのは 2 回目である。1 回目は第 18 回 IFBLS 学会(1996 年)を神戸で開催したものであるが当時を知る理事は少なく、このような状況で学会を開催するにあたり心配事はあったが、トラブルなく無事終了したことに、各理事の努力と応援して頂いた多くの会員の皆様に感謝申し上げます。今回の学会がこれからを担う若い検査技師の皆様が国際感覚を身につけるきっかけの一つになれば、実行委員の努力は報われるものと思われる。皆様、有難うございました。